



ひじまる

第10弾 地域の暮らしをより豊かに 便利にする道づくり

大切にしている思い。
それは、利用する方にとって安全で
走りやすい道路にすること。

今回お話を伺ったのは

株式会社ブリッジカンパニーの

高松秀樹さん（写真右）と末光史弥さん（写真左）です。

下敷水地区付替県道工事について詳しく教えていただきました。

インタビュー記事はこちらから→→



□工事内容を教えてください。

私たちが施工する工事は下敷水地区において、県道小田河辺大洲線の付替工事を行うものです。
平成28年度工事では、前回工事の道路を引き続き延伸していきます。



□工事の流れを教えてください。

現道は道幅が狭いので、まず最初に現県道の拡幅を行い、一般車両に対して土砂などを落とさないよう仮設防護柵の設置を行います。一般車両の安全確保が出来てから山側の掘削を行っていきます。掘削を行った斜面には数種類の植物の種を吹き付けていきます。なぜなら、植物が根を張ることで斜面の土が崩れにくくなり、景観もよくなるからです。

その後、山側のよう壁や、排水溝などを施工し、道路となる路面の整備を行い完成となります。

道路拡幅部分



道路拡幅・仮設防護柵設置



仮設防護柵

□作業は何人くらいで行っていますか。

現在は、現県道を拡幅するために必要な仮設進入路を設置する作業を行っており、大型土のうの製作、盛土材の搬入、路面の整備等に対し7~8名程度で作業しています。

現在、川側から道路を拡げる作業を行っています



□この現場ならではの困難な事がありますか。

工事箇所が現県道に隣接しているため、特に、①一般車両の通行を極力妨げないよう配慮すること、②作業時の安全面、の2点に注意しています。

加えて、工事が片側からでしか作業を進められない事です。この課題を解決するため新たな仮設進入路を計画するなどし、工程短縮の工夫を模索しています。

□工事を行っていく上で特に気を付けていることはなんですか。

現県道に隣接している工事なので、通行される方の安全を一番に考えます。あとは、主要な工種がコンクリートよう壁工なので品質管理にも気を付け、美しい構造物に仕上げることが目指します。



□全国では地震や水害などにより道路や橋が壊れたり土砂崩れも発生しています。仮に災害が起きた時にはどのようなお仕事があるのでしょうか。

災害時は、救急車、消防車などの緊急車両や物資運搬車両の通路を確保することが、重要だと考えます。現場や、資材倉庫には、建設会社ならではの物資を備蓄しています。

大型の建設機械や土のうなど災害時に必要なものがありますので、道路の復旧などで皆さんのお役に立てればと考えます。

□仕事をしていた一番やりがいを感じるのはどんなときですか。

難しい工事を任せ、それをやり終えたときです。その工事に取り組んでいるときは、苦勞することや壁にぶつかることもあります。そのハードルを乗り越え、工事が完成したときには、大きな充実感があります。その工事を通して自らの成長を実感することもでき、とてもやりがいを感じます。

□地域の方々へ一言お願いします。

県道小田河辺大洲線を付け替えることにより、幅員が広くなりますし、落石の危険も少なくなります。

県道を利用される地域の方々にとっても安全で便利なものになると思います。

工事中は、何かとご迷惑ご不便をおかけすることもあると思いますが、誠心誠意対応してまいります。ご協力をお願いいたします。

あとがき

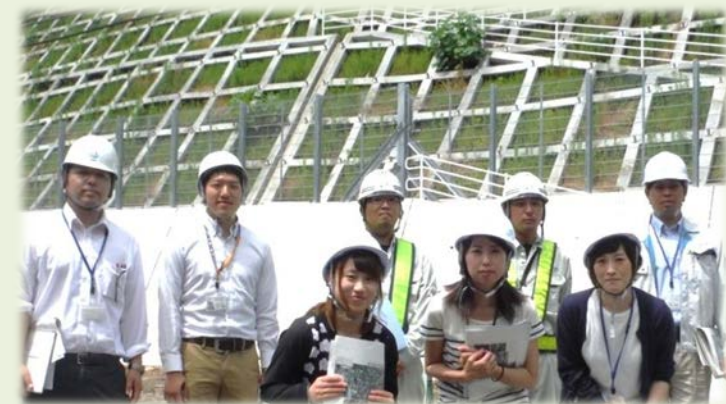
私も何度か車で通ったことのある小田河辺大洲線ですが、実際に道路におりてみると、現道の狭さを感じました。一言で、道路を拡げる、新しい道路を造るといっても、その過程にはたくさんの工程が必要だということを知ることが出来ました。

毎日この道を通られる地元の方にとって、広くて運転しやすい道路になっていくと良いなと思います。

また、これからの暑さ対策として現場で働く作業員の方は簡易テントなどで、適宜休みをとって熱中症対策を行っているそうです。

普段、なかなかお聞きすることのない、工事現場の方のお話を聞くことができ、いつも何気なく走っている道路や工事に対する見方が変わりました。お忙しい中、丁寧に質問に答えていただきありがとうございました。

工務課 期間業務職員 上野



今回のインタビューでは
若手職員、期間業務職員の6名を現場案内していただきました